

# なんでヒアリの事をあんなに騒ぐのですか？

イカリ消毒株式会社 富岡 康浩

### 《質問》

アリは昔からごく普通に日本にいるのに、なぜヒアリにこんなに騒ぐのですか？（一都民）

### 《回答》

ヒアリが見つかって大騒ぎしているのは、本種が特定外来生物だからです。平成16年に「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」が公布されました。この法律は「特定外来生物被害防止法」、さらに略して「外来生物法」とも呼ばれています。特定外来生物による生態系、人の生命・身体及び農林水産業に係る被害を防止し、生物の多様性を確保することを目的とするとともに、無許可での特定外来種の飼養、栽培、保管、運搬、輸入を禁止しています。法人がこれに違反した場合には1億円以下の重い罰金が課せられます。この法律に基づいて、特定外来生物の選定が行われました。

最初の特定外来生物の指定にあたり真っ先に名前があがった昆虫は、ヒアリ、アルゼンチンアリ、アカカミアリの3種でした。3種は特定外来生物として指定され、平成17年4月27日に公布、同年6月1日に施行されました。続いてコカミアリの指定が同年12月14日に公布、平成18年2月1日に施行され、現在アリは4種が指定されています。特定外来生物はこれまで12回の追加指定が行われ、現在は132種の動植物が指定されていますが、そのうち昆虫は9種です。その中の4種を占めるアリは、害虫の中でも特に重要であると言えます。

ヒアリ、アルゼンチンアリなどは、「世界の侵略的外来種ワースト100」(100 of the World's Worst Invasive Alien Species)にも選定されています。これは国際自然保護連合(IUCN)の種の保全委員会が定めた、本来の生育・生息地以外に侵入した外来種の中で、特に生態系や人間活動への影響が大きい生物のリストです。100種のうち節足動物は17種で、その中にアリが5種(ヒアリ、アルゼンチンアリ、コカミアリ、ツヤオオズアリ、アシナガキアリ)も挙げられており、アリはやはり世界的にも重要な害虫であることが分かります。日本の生態系や人間活動への影響が大きい「日本の侵略的外来種ワースト100」には、アルゼンチンアリは既に選定されていますが、日本本土で発見されたばかりのヒアリやアカカミアリはまだ含まれていません。ちなみに「日本の侵略的外来種ワースト100」に挙げられた昆虫は22種あり、家屋害虫ではイエシロアリとチャバネゴキブリの2種が選定されています。

特定外来生物に指定されている4種のアリのうちアルゼンチンアリだけは1993年に日本への侵入と定着が確認され、現在も根絶に向けて防除が続けられています。他の3種は近年までは日本本土での記録がなく、特にヒアリについては国内未記録ながら、他のアリよりも危険な昆虫であることから、侵入が警戒され

## なんでヒアリの事をあんなに騒ぐのですか？

ていました。その最中、今年5月26日についてヒアリが兵庫県尼崎市で発見されました(6月13日発表)。

即刻、環境省は各都道府県および(公社)日本ペストコントロール協会に協力を要請し、全国68箇所の主要な港湾でヒアリ調査を実施しました。その結果、福岡市から横浜市まで国内各地で発見されるに至りました。その間、

平成29年7月20日に安倍総理は総理官邸で、ヒアリ対策関係閣僚会議を開催し、ヒアリの侵入・定着を防ぐために、関係省庁間の連携を強化し、政府一体となって取り組んでいくことを表明しました。ヒアリがこれほど騒がれるのは、有毒で危険な害虫であると同時に、外来生物法の対象となる特定外来生物であることに起因しています。

